

野外彫刻プロムナード展の成果と課題

1. 成果

①都市景観の形成に寄与

- ・文化会館パティオ池鯉鮒から公園通まで、「野外彫刻プロムナード」と呼べるまでに作品を集積させることができた。
- ・パティオ池鯉鮒のエントランスロード（野外彫刻プロムナード）と、公園通は、愛知県の「美しい愛知づくり景観資源」に指定されている。
- ・「パティオ池鯉鮒とエントランスロードに彫刻がある風景」は、「知立の風景 40 選」の中で 3 点選ばれており、知立の新たな風景として市民に認知されている。

②新たな観光資源として認知

- ・知立の観光というと、「弘法さんの縁日」や「八橋のかきつばた」が主だが、そういった観光のオプションとして野外彫刻プロムナードを歩いてみよう、という趣旨で、近年、名鉄のフリーペーパー「W i n d」や愛知県の観光情報サイト「Let' s Go あいち」から取材を受けている。

③知立市内の芸術意識の向上に寄与

- ・これまでにエントランスロードで展示した作品のいくつかは、市内企業や団体、個人に購入いただいたり、寄贈を受けたりしている。
- ・野外彫刻プロムナード展の運営に際しては、第 1 回より知立ライオンズクラブの支援をいただいている。
- ・こうしたご協力が、プロムナード展の継続を可能とさせ、芸術意識の向上に大きく寄与している。

2. 課題

①継続するための体制

- ・ご尽力いただいている愛知教育大学の宇納教授が退官を迎えるため、プロムナード展を継続させていくためには、今後、新たな体制を模索する必要がある。

②野外彫刻プロムナードの延伸

- ・パティオ池鯉鮒から南陽通りの交差点までは、11 作品が常設展示され、野外彫刻プロムナードとしてつながったが、南陽通りから知立駅、リリオコンサートホールまでの作品の集積が実現できていない。
- ・弘法さん等に比べると、観光資源としての認知度はまだ低い。

③設置後の管理

- ・作品の破損に備えて保険をかけているが、事故を未然に防ぐ方策も考える必要がある。
- ・近年、野外の設置に耐えられない素材の作品が設置される傾向にある。
- ・事故発生防止のため、ひいては市民にとってより愛着のある作品となるよう、設置後の管理についても配慮する必要がある。



公園通

こうえんどおり
知立市 1



■ 場所

知立市南新地

[map - 公園通](#)

公園通は**歩行者専用**道路になっており、地域の人々が日常的にさまざまな目的で行き交う道です。通りに面して新地公園、図書館、歴史民俗資料館といった公共施設があり、彫刻が通りの出入り口におかれ、通りの顔となっています。文化会館～知立駅～リリオホールまでが文化芸術に**触れあ**うまちづくりとして地域に**溶け込**んだ**景観**です。新しい**景観**ではありますが、日常に追われ普段芸術に**触れ**合うことができない人々に知立の新しい**景観**として、知っていただきたいです。

推薦：知立市

[知立市一覧へ次へ](#)

美しい愛知づくり景観資源 知立市 公園通 23225-1



[愛知県ホームページへ](#) [愛知県建設部公園緑地課](#) 企画・景観グループ

お問い合わせ

Copyright 2009, Aichi Prefecture.



野外彫刻プロムナード

やがいちょうこくおろむなード
知立市 4



■ 場所

知立市上重原町

[map - 野外彫刻プロムナード](#)

知立市文化会館前のエントランスロード（前面道路）にある彫刻など6点の作品が展示されています。平成12年の開館から愛知教育大学と知立ライオンズクラブのご協力を得て野外彫刻プロムナード委員会が毎年展示作品を入れ替えています。市民や知立市文化会館へ訪れる人々が日常を忘れ、誰でも芸術文化に親しみ、彫刻と文化会館、彫刻と田畑風景との四季を通じた美しい景色を楽しむことができます。夏は、青々とした田んぼを背景にした景観、また秋には黄金色の稲の背景と作品との融

合した景観など、季節が見せる景観の変わりざまを観て頂きたいです。

推薦：知立市

[前へ知立市一覧へ](#)

美しい愛知づくり景観資源 知立市 野外彫刻プロムナード 23225-4



[愛知県ホームページへ](#) [愛知県建設部公園緑地課](#) [企画・景観グループ](#)
お問い合わせ

Copyright 2009, Aichi Prefecture.

40 Views of Chiryu

Seen from different perspectives, the familiar scenery of Chiryu can take on entirely new and exciting forms. To commemorate the 40th anniversary of the city's founding, we carefully selected 40 photographs taken by local residents that beautifully capture these unique views of Chiryu.

Seleção de 40 imagens de Chiryu

As vistas que costumamos ver sempre, ora mostram outras faces, quando vistas de ângulos diferentes ou se abre em uma vista maravilhosa que só você conhece. São estas as vistas que recebemos de todos os cidadãos, selecionando 40 obras em comemoração aos 40 anos de fundação do município.

凡例

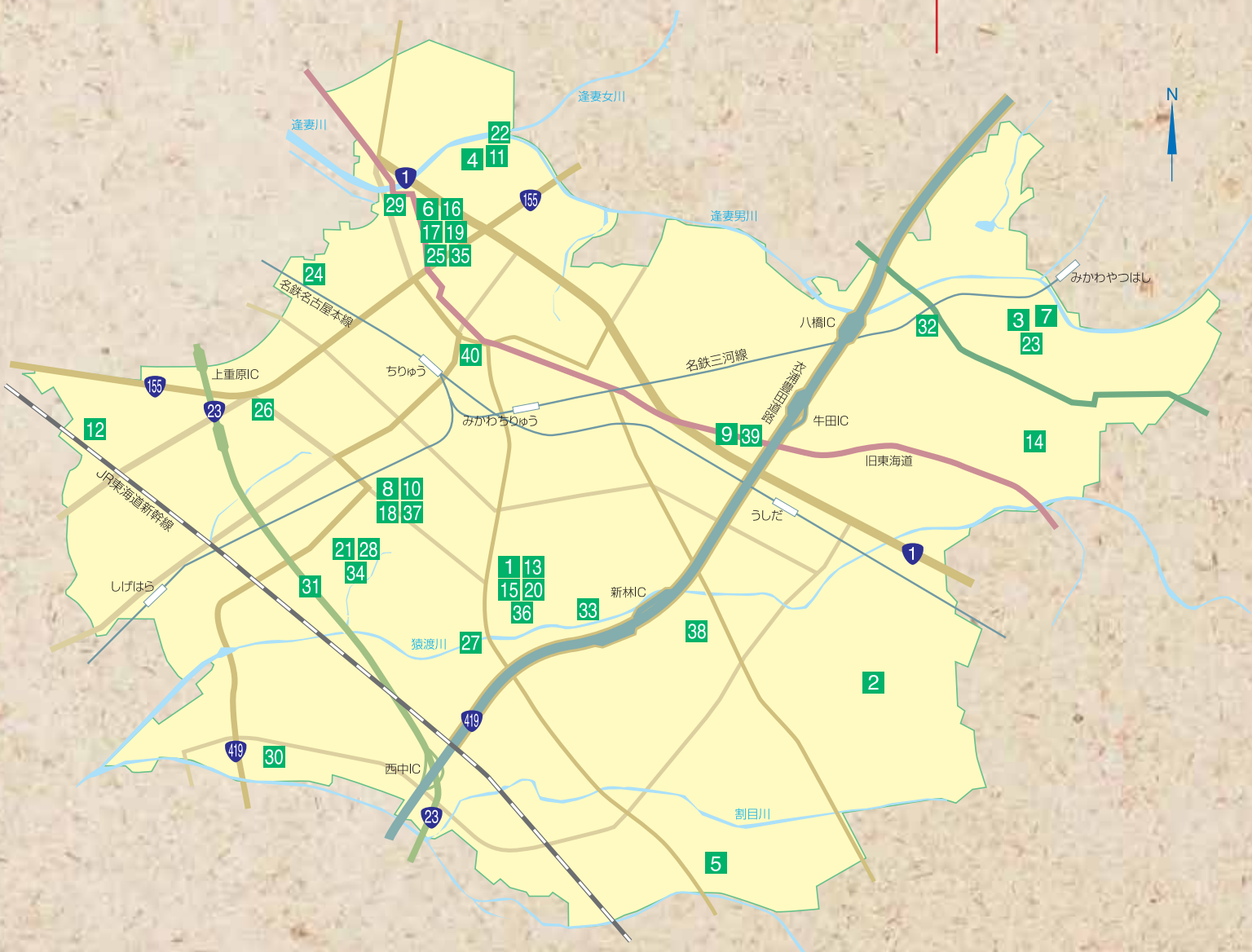


■ (番号) タイトル：撮影場所
氏名またはペンネーム

いつも見慣れた知立のまちの風景も、見方を変えれば新しい表情を見せてくれたり、自分しか知らない素敵な風景が広がっています。そんな風景の写真を市民の皆さんから募集し、市制40周年を記念して40作品を厳選しました。(順不同・敬称略)

知立の 風景

40 選





10 「風の門」：図書館
杉浦豪剛



11 「朝霧の中の日の出」：逢妻川付近
丸坪 憲



12 「丸山古墳の森と虹」：上重原町
野々山誓司



13 「遍照院前の路地」：弘法町
中村廣美



14 「西井緑道の桜」：明治用水西井緑道
杉本博之



6 「柿葺(こけらぶき)の多宝塔」：知立神社
勝呂嘉裕



7 「花と歌碑」：八橋かきつばた園
音羽賢一



8 「夕暮れ時の公園」：新地公園
支千后



9 「往時を偲ぶ松並木」：松並木
清水清草



1 「善の綱」：遍照院
杉浦幸雄



2 「寂」：昭和6号公園
石川博文



3 「在原業平像」：八橋かきつばた園
三浦 聡



4 「逢妻川(朝)」：逢妻川堤防
田中雅春



5 「秋の谷田神明社」：谷田神明社
浅岡由次

知立の風景



25 「神殿」：知立神社
浅岡康子



20 「ふるさとの丸型ポスト」：弘法町
八橋の写楽



15 「しだれ桜の下の地藏様」：遍照院
辻 克彦



21 「朝日を浴びるパティオ」：パティオ池鯉鮒
杉浦豪剛



16 「きれいに咲いたね」：知立公園
汗かきおばさん



22 「逢妻男川と女川の合流点」：逢妻川付近
丸坪 憲



17 「憩いの場」：知立公園
杉浦幸雄



26 「分岐点」：国道155号線鳥居交差点
佐藤文彦



23 「竹林越しの茶室『燕子庵』」：無量寿寺
辻 克彦



18 「ハバタケ」：新地公園
支千后



27 「猿渡川の流れ」：上重原町
永田雅康



24 「桜と電車」：草刈公園
馬場美紀



19 「山車文楽」：知立神社
清水幸子



36「弘法さんの木陰」：遍照院
大原憲雄



31「ルート23夕景色」：パティオ池鯉鮒付近
佐藤文彦



28「雪にかすむ」：パティオ池鯉鮒
杉本博之



37「歴史民俗資料館・図書館と新地公園」：新地公園
田邊康昭



32「根あがりの松」：八橋町
勝呂嘉裕



38「福祉の里のコスモス」：ハツ田町
伊藤 捷



33「猿渡川横の田園風景」：弘法町
永田雅康



39「東海道松並木」：松並木
杉浦幸雄



34「少女とパティオ」：パティオ池鯉鮒
勝呂嘉裕



29「逢妻橋」：逢妻橋
丸坪 憲



40「鐘楼」：称念寺
竹内一二



35「祭り」：知立神社
浅岡康子



30「黄金色の公園」：西中跡落公園
浅岡由次

40

選



大竹敏之
東海地区のB級スポット
発掘をライフワークとする
フリーライター。著書は
「東海珍名所九十九ヶ
所巡り」、「東海発パカル
ト紀行」、「名古屋の喫茶
店」など。

①～⑬は、パティオ池鯉
鮒前の「第11回野外彫刻
プロムナード展」展覧作品。

①「奇妙・奇天烈な身体」

路傍のアートたちが
どこか親しみやすい理由は？

東海道五十三次の池鯉鮒宿、伊勢物語や弘法様ゆかりの寺院など、歴史の町というイメージが強い知立市。だが、近年新たにアートの町になりつつあるのをご存知だろうか？

知立駅からも近い新地公園周辺の遊歩道を中心に、パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)までの間に20点近く、あちこちに彫刻作品が展示されている。動物がモチーフの誰が見ても分かりやすい作品が比較的多く、親しみやすさを感じる。「これらはすべて大學生の作品なんです」と知立市役所都市計画課の伊藤博生さん。

2000年から
着々と進行していた
知立市アート化計画

2000年の知立市文化会館「パティオ池鯉鮒」の開館に合わせて、施設

町の数だけ、駅の数だけ「珍」はある。珍なる名所やスポットの発掘・探訪をライフワークとするライター・大竹が名鉄沿線の珍な見どころを探して歩きます。



前のエントランスロードをアートで飾る「野外彫刻プロムナード展」が開かれたのがその始まり。

「普段から市民の目にふられるアートと考え、屋外彫刻を展示することにしました。お隣の刈谷市にある愛知教育大学の彫刻研究室にご協力いただき、生徒さんに出品してもらったことにしたのです。以来毎年6作を展示。昨年10周年を迎えました」

プロムナード展は毎年10月に開催され、作品は1年間限定でパティオ池鯉鮒前の通りに屋外展示される。期間終了後、作者が引き続き市内での展示を承諾してくれた作品に関しては、ほかの場所へ移設し、常設展示している。つまり、遊歩道二帯の11作品は、野外彫刻プロムナード展の歴史展作というわけなのだ。

また、プロムナード展の展覧作に関しては、購入希望者への販売も。これまでに3作品ほどに買い手がついたという。学生にとっては、作品を多くの人に見てもらふことができ、さらには購入してもらふチャンスにもなる。

市にとっては、プロに頼めば十数万、数百万円する彫刻作品をほぼ無償で町にたくさん設置できる。これはお互いにとってオイシイ関係だ。

路上から世界へ羽ばたけ
若手アーティスト

最近では、佐久島のアートビクニックやあいちトリエンナーレ開催など、アートによる町づくりが各地で盛ん。知立市の取り組みは、学生とのコラボという点でも特徴的で、ほのぼのしていて面白い。出品学生の中には、その後一線で活躍している作家もいるので、未来の一流アーティストにいち早く目をつける楽しみもある。「今後展示作品を増やして、市内中を彫刻でいっぱいにしたい。参加してくれる学生さんにはこれをステップにしてもいい、さらに作品に感性を刺激された子どもたちの中から将来アーティストが育つてくれるのが夢です」と伊藤さん。

駅を起点に作品を見て回るには、歩いて30分程度。ちよと分かりにくい場所に設置されたものもあるから、発見するつもりでアート散策してみてはいかがだろうか。

野外彫刻プロムナード (知立市)

変顔やキュートなアニマルなどなど、知立はアートの町だった！



※詳しいMAPは
P4をご覧ください。



①「わ-WA-」



②「ネコゴッコ」



③「談-Chat-」



④「水顔-みずかほ-」



⑤「記憶-猫-」



⑥「ハッケンヨイ」



⑦「童-空想と思案-」



⑧「IMOMUSHI」



⑨「風の門」



⑩「かばのモワモワ」



新地公園周辺では、⑦～⑪の過去の出品作が常設展示されている。



⑫「ハジマリノカタチ」



⑬「I saw 笑」



⑭「歌う人2」



⑮「記憶の座」



⑯「WORKS 2007」



⑰「のぞみ」



LET'S GO! あいちとは



ホーム

エリア

スタッフ放浪記

観る

遊ぶ

食べる

自然

< 前のページへ戻る

あなたはどの作品がお好き？ 知立市「野外彫刻プロムナード」

ジャンル：[観る](#) | エリア：[西三河地区](#)

(取材日：2011年12月15日)

◆無料レンタサイクルで野外彫刻めぐり！

知立市には、じつは野外彫刻が充実していることをご存知ですか？ これは知立市と知立ライオンズクラブ、愛知教育大学彫刻研究室・宇納一公（うのうかずひろ）教授の協力・連携のもとでスタートした『野外彫刻プロムナード事業』によるもの。市内で野外彫刻作品がまとまって見られる場所は、パティオ池鯉鮒の進入道路（エントランスロード）と、新地公園遊歩道周辺の、2つのエリアです。今回、せっかくなので全部の作品をめぐってみたいと思います！



ちなみに知立市には、『[池鯉鮒の歴史と自然の散歩みち](#)』が設定されていて、ウォーキングルートも豊富。このうち、「F.街なかの桜散歩みち」、「K.健康のみち」を歩けば、自然に野外彫刻鑑賞もできるようになっています。双方歩いて回るのもオススメですが、今回名鉄・知立駅に降り立ったマツモトは駅前駐車で、[レンタサイクル](#)をゲット。じつは知立市のレンタサイクルは、無料で借りられちゃうんですよ。マツモトが借りたレンタサイクルは3号車。ということで、駐輪場に行ってみると――



さすがは知立。前カゴに老舗大あんまき屋さんの広告が！（笑）（注：自転車ごとに広告は異なります）レンタサイクルは、この知立駅前駐輪場（8:30～19:00）と、知立市役所南駐輪場（8:30～17:00）の2か所が受付場所。放置自転車を再利用しているものですが、ちゃんと手入れされているのでとても快適に走れますよ。通勤・通学以外であれば、ショッピングや観光など自由に使えるので、これは積極的に使わない手はありません。

◆第12回野外彫刻プロムナード展、開催中

知立市では毎年『[野外彫刻プロムナード展](#)』を開催しており、2011年で12回目を迎えました。この企画展は2000年の「知立市文化会館 パティオ池鯉鮒」の開館に伴い、地元の愛知教育大学彫刻研究室・宇納教授から「せっかくな文化施設ができたのだから、その周囲にもアート作品を展示してみても？」と提案されたことから生まれたものだろう。パティオ池鯉鮒のエントランスロード両脇には、毎年10月から翌年9月まで、6点の新作が展示されます。展示されているのは、同研究室の学生の作品（卒業制作）や、同大学にゆかりのある彫刻家の作品が中心。ではさっそく今年の展示作品を見てみましょう。

まずは黄金色に輝く青島芳明さんの『**キツネ**』。



うーん、どうがんばってもキツネそのものには見えないけれど、なんだか物語を感じさせる作品ですね。背景の田んぼとも、雰囲気がよくマッチしていませんか？
そして右手を高々と挙げているこの人物像は、近藤友貴さんの『無題』。



この方、どうもアノ人に似ている気がするんですが……。まあ無題ということなので、深くは追究しないでおきましょうか。
お次はトラディショナルな彫像を発見。吉田有希さんの『均整』。



たしかにポーズもプロポーションも、均整のとれた女性像。歩道を歩いているとお尻側しか見えませんが、正面から鑑賞したい方は反対側の歩道に回ってくださいね。
さて、反対側の歩道に渡ると、今度はよつきり飛び出た生足に遭遇。中山友希さんの『漂うさかさま』。さきほどの作品『均整』の、ほぼ向かいにあります。



ピンクのスカートの下、水色の物体は船。行き場のない船に乗り、さまよう（おそらく）うら若き女性…。色はかわいらしいけど、なかなか意味深です。
お次はちびっ子に人気という作品、林幹久さんの『咆哮』。



この作家さんは、ずっと怪獣にこだわり続けて作品制作をしているのだそう。カッコよくもあり、どこか人間っぽさも感じるフォルムが、親しまれる要因になっているのかもしれません。
そうそう、これら彫刻作品の脇には椅子やベンチが設けてあるので、のんびり一休みしながら作品鑑賞することもできますよ。
そして、最後の1体、関川美有さんの『0』（ゼロ）。



よく見るとわかりますが、残念ながら左側に亀裂が入って一部破損中。野外彫刻は触ってもOKな環境にあるだけに、ときどきこういうことも起こります。「人々が出会い、かわりあうことを抽象的に表現した」というこの作品、そう言われれば手足のある2人の人間が、おでこを寄せ合っている姿にも見えてきますね。

◆常設の野外彫刻もおもしろい！

パティオ池鯉鮒エントランスロードでの展示終了後、基本的に6点の作品は作家さんに返却されますが、市内企業や個人・団体が購入し、市に寄贈されたものは、新地公園等の市内公共施設に場所を移して常設展示されます。というわけで、今度は新地公園方面へGO！ 常設作品たちに会いに行きます。現在野外展示されている作品は、11作品。マップは[コチラ](#)をご参照ください。

作品は、丁夙公園に1つ、新地公園遊歩道に8つ、そこから少し離れた道路脇に1つ、そして鳥居公園に1つの、計11体。マツモトはマップの11番、丁夙公園から攻めてみました。

丁夙公園に展示されているのは、小島雅生さんの『ハジマリノカタチ』。



「生命の樹」と、「空」「風」「火」「水」「地」を司る生き物たち。丸い玉に座っている彼らは、それぞれがかわいい！ 個人的にはその座り姿とお腹の皺がツボでした。



道路を渡って遊歩道を歩きます。入口で最初に会ったのは、高崎雅代さんの『かばのモアモア』。



かばの名前がモアモアなのか、モアモアした何かを吐き出しているところなのか.....もやもやしますが、そこが狙いなのか。小さな作品ですが、つるんとしていて、さわり心地はバツグンでしたよ。
入口にもう1つある作品が、市川徹さんの『ハッケヨイ』。



なんだかやる気まんまんのにゃんこです。しかし、知立市の紹介ページによると「尾を中心にみると、おす

もうさんの顔に見えますよ」。——なるほど。真後からは見られなかったんですが、こちら側からだと、おもうさんの後姿にも見えてくる！
その先に進むと、今度は静かなたたずまいの猫を発見。川本麻裕さんの『記憶 一猫一』。



何を見つめているのかな？ やはりタイトルになっている"記憶"でしょうか。顔は笑顔のようですが、後から見てみると、ちょっぴり猫背がさみしそう。
本当はこの近くに、江村和彦さんの『水顔 一みずかほ一』という作品もあったのですが、陶器の作品だったために割れてしまい、現在修復中。残念ですが、再登場の日を待ちましょう。

知立市図書館前に行ってきました。図書館のほぼ正面に作品があります。近藤均さんの『風の門』。



"新しい街づくりの風がこの門を通り抜け、拡がってほしい"との思いから生まれた作品なんだそう。
背後に広がるのは新地公園。公園と図書館の間をつなぐ、よいアクセントになっていました。
地下道を通り抜け、公園通工リアの遊歩道を進みます。むむ。うにょとしたこれは何？ 鵜飼留美子さんの『IMOMUSHI』。これは、おかれた場所も高さも、ちびっ子が触って遊ぶには最適な作品ですね。



遊歩道の終着点には、2体の作品が待っていました。2人の童（わらべ）が、膝を抱えてひそひそ話をしているようなかんじ。久野佐和子さんの『童 一空想と思案一』。いったい何をたくらんでいるんでしょうか（笑）。



そしてその反対側には、鳥たちが羽根を休めておしゃべりしているような野村和弘さんの『談 一Chat一』。手前の椅子、空いてるよね？ ちょっと仲間に入れて一。と和みたくなります。



さて、残る作品は道路を挟んであと2つ。遊歩道の終着点から、やや知立駅方面に歩いた道路脇にあるのが都築美咲さんの『ネコゴッコ』。ファンキーな模様のアルミのネコが鯉を追いかけてる...。この作品は、ぜひ裏側からも見てみてください。「なるほどね～」というつくりになっています。



ついに最後の作品に到達です。知立西小学校裏の鳥居公園にある、梅本洋子さんの『わ ーWAー』。



ドーナツのように横たわった輪と、ちょっと離れたところに傾く、もう1つの輪。周囲をぐるり1周してみると見え方が変化して、なおかつどこから見てもバランスが取れてます。輪が和を表現してるのかな？などとあれこれ妄想したり、途中で休憩を挟んだりしていたら、全部見終える頃には軽く2時間が経過。これは頭と身体、いい運動になります。弘法さんの縁日や市内観光のオプションとして、ぜひお散歩がてら野外彫刻もめぐっててくださいね。



ツイート



Share